

## 現代の「アイドル誌」にみられるジェンダー規範の構築

同志社大学 田島悠来

### 1. 研究目的および背景

本研究は、1980 年代以降に日本において創刊した「アイドル」の情報を提供する雑誌である「アイドル誌」<sup>※1</sup>の読者交流の場で、どのようなジェンダーによるメッセージが発せられているのかを明らかにすることを目的とする。

1970 年代に雑誌としての躍進期を迎えた『平凡』（凡人社→平凡出版、1945 年）『明星』（集英社、1952 年）の人気を受けて、後発誌となる「アイドル誌」が、『明星』の集英社と学習研究社を中心にして 1980 年代に相次いで発刊している。それらの雑誌は、『平凡』『明星』が広く若い男女を読者として想定していたのに対して、男性読者に向けて「女性アイドル」の情報を伝達するもの、女性読者に向けて「男性アイドル」の情報を伝達するものと、読者のジェンダーによって分離した「アイドル誌」というジャンル構築を行っている。また、『読書世論調査』（毎日新聞社）によると、これらのうち「男性アイドル誌」は、特に 1990 年代中盤には小中高生の女子に多く読まれる雑誌となり、現在に至るまで一定の読者数を獲得し続けており、青少年の生活に深くかかわっている雑誌メディアであると言えるが、従来の研究において十分に注目されてきたとは言い難い。

以上を踏まえ、本研究では、1980 年代に創刊し現在も刊行中である「女子向け男性アイドル誌（以下「女子向け）」を主軸に、「男子向け女性アイドル誌（以下「男子向け）」を比較対象として挙げながら、読者ページにおける読者交流に着目して、「アイドル誌」により構築されているジェンダー規範とはいかなるものであるのかを考察していきたい。

### 2. 研究方法

研究方法としては、まず、以下の四誌を分析対象とした。<sup>※2</sup>

- ①『POTATO』（学研パブリッシング、1984 年 9 月創刊、AB 判→A4 判）「女子向け」
- ②『Duet』（集英社→ホーム社、1986 年 11 月創刊、A5 判→AB 判）「女子向け」
- ③『Wink up』（ワニブックス社、1988 年 7 月創刊、AB 判）「女子向け」
- ④『BOMB!』（学研パブリッシング、1979 年 3 月創刊、A5 判→AB 判）「男子向け」

次に、以上の雑誌について、すべての雑誌の創刊号および翌年からの 4 月号<sup>※3</sup>を分析対象号とし、各号の読者との交流を意図したページ群である読者ページにて、ページ内のコーナーを①文字によって書かれたものである投書②イラストや写真による創作物の二つに分

類し（以下「投書」「創作物」と記載）、その内容を分析した。加えて、「女子向け」においては、「ジャニーズ」（ジャニーズ事務所に所属する「男性アイドル」）に特化したコーナー（以下「ジャニーズコーナー」）<sup>\*4</sup>がどのくらいの数含まれているのかも調査した。対象としたのは、『POTATO』1984 年 10 月号および 2014 年までの 4 月号計 31 冊、『Duet』1986 年 12 月号および 2014 年までの 4 月号計 29 冊、『Wink up』1988 年 8 月号および 2014 年までの 4 月号計 27 冊、これに、『BOMB!』1979 年 4 月号および 2014 年までの 4 月号計 35 冊（ただし、保管状況の関係で 80 年は 2 月号を対象とし、89 年は対象から除外した）を加えた合計 122 冊の読者ページである。

### 3. 結果

得られた知見としては、大きく次の五点を挙げられる。第一に、「女子向け」の投書コーナーにおいては、異性である男子との恋愛が時代を超えた読者の主要な関心事となり、他の読者との交流を通じて生じる悩みを解決していこうとしていることが明らかとなった。第二に、「女子向け」においては、時代を経るに従って「ジャニーズ」に特化したコーナーの数が増える傾向にあり、2012 年になると、読者間交流というよりも、読者と「ジャニーズ」との対一のコミュニケーション、更に言えば、読者側から「ジャニーズ」へ向けた一方向的な想いの吐露に重きを置くコーナーが出現するようになる。第三に、「ジャニーズ」への関心の高まりと時を同じくして、読者は投書文で、「ジャニーズファンである女子」であるというアイデンティティ表明を行い空間内での帰属意識を形成するようになるが、それは、児童・生徒に留まらず読者の年齢や属性をも越境していくものであった。第四に、2012 年までには、「ジャニーズ」のイラストという創作物を介して読者同士が交流するコーナーが設けられるようになっていたが、これは、「ジャニーズ好き」であることによって読者間に絆が芽生えていることを想起させる新たな交流形態であると考えられる。第五に、「男子向け」と比較すると、「男子向け」においては、投書コーナーが異性である女子との性的な体験を披露する場となっており、95 年以降は、性的行為に特化したものを掲載するように変化していること、また、「女子向け」に見られたような読者間交流は投書を通じて、創作物を介しても見られないことがわかった。

### 4. 考察および自己評価

以上の結果を研究目的に照らして考察を加えると、分析対象とした「アイドル誌」からは、「女子向け」「男子向け」という読者のジェンダーにより異なるメッセージ、つまりは、「性欲の喚起は男性に、恋愛を紡ぐのは女性という、性をめぐる構図」が色濃く浮かび上がった。また、男女別のカテゴリーと、異性の「アイドル」に偏った情報提供や交流とに

より、青少年読者へ向け異性愛の推奨をジャンル形成時点で行っているのが「アイドル誌」の特徴でもある。性と愛とが結びついた異性愛こそが「正しい」セクシュアリティであるというイデオロギーは、近代的な産物であるにもかかわらず、「アイドル誌」において時代を超えて異性愛至上主義が貫かれていることは、一つに、戦後を通じて異性愛こそが再生産すべき規範として日本社会の中で受け継がれていっていること、二つに、読者側も、その枠組みに埋め込まれていっていることを示していると言える。一方で、読者は単に受動的に規範に組み込まれているにすぎないのだろうか。80 年代以降、法制度の整備に伴い、女性のライフコースも多様化してきていると言えるが、近年は長引く不況、それによる若者の就職難により、若年層女性の専業主婦志向を加速させている一面もある。その点を踏まえると、「女子向け」において女子読者が青少年時より異性の男性との付き合い方を「ジャニーズ」や他の読者との交流により学び、それを将来の夢の実現、つまりは、恋愛結婚の達成の備えとすることは、読者がそうしたライフコースを選択していく能動的な態度の表れであると捉えることもできるのではないか。

他方で、「女子向け」に見られた「ジャニーズファンである女子」という帰属意識の創出や、投書、創作物による読者間交流は、「ジャニーズファン」である女性同士の積極的なメディア・コミュニケーションの一環として位置づけられる。そして、特に 2012 年に入って見られ始めたイラスト等、自身のクリエイティビティを發揮しての読者同士のやり取りは、申請者が行ってきた『Myojo』（2002 年～2012 年を対象）の読者ページの分析では見られなかったものであり、80 年代以降の「アイドル誌」ならではの知見として提示できる。

研究の自己評価としては、研究期間において、80 年代以降に創刊した「アイドル誌」の読者交流の場で構築されるジェンダーによるメッセージ、規範がいかなるものかを抽出するという本研究の目的に対し一定の成果を得たことに加え、「アイドル誌」の読者交流形態の経年変化を捉えることで、既存の雑誌研究がこれまで焦点を当てていなかった空白部分を埋めることができたと考える。また、特に「女子向け」においては、「ジャニーズ」と読者との交流に着目することで、「ジャニーズ」のファン研究の進展にも貢献することができたのではないかと考える。

## 5. 今後の研究課題

今後の展開としては、読者ページに限らず、「アイドル誌」の誌面においてはいかなる「アイドル」のイメージが形成されているのか、それによって発信されているメッセージはいかなるものであると言えるのかについても引続き研究を進めていくことが求められよう。さらに、雑誌の製作者側の見解もインタビュー調査を行う等して明らかにしていくことを念頭に入れる。また、インターネットという情報技術の発達により、若年層のコミュニケ

ーション手段は紙媒体に留まらず、SNS など双方向性有するものへの傾倒が顕著になっており、こうした新たな交流形態が雑誌と読者との関わり方に何らかの変化をもたらしているのではないかということが、創作物を介した読者同士の新しい交流が 2012 年になって出現した所以なのではないかという更なる問題提起を抱くに至った。以上も課題としたい

【注】

- ※1. 本稿における「アイドル誌」とは、『雑誌新聞総かたろぐ』（メディアリサーチセンター）において、「少女」「少年」ジャンルに分類される雑誌のうち、若年層の芸能人・タレント・歌手に焦点を当てた誌面作りを展開するもののことを指す。
- ※2. のうち 1980 年代に創刊したものうち、社会への雑誌の浸透度を鑑み、現存しなおかつ、『読書世論調査』の「学校読書調査」1980 年代以降の「いつも読む雑誌」の項目にランクインしたものを選出した。
- ※3. 4 月号を選出した理由は、これらの雑誌の読者が主に学校に通っている児童・生徒であることを踏まえ、新学期が始まる時期にあたり、合わせて誌面が刷新され、読者ページにおいては新たなコーナーが開始する時期でもあることが推測されるからである。
- ※4. ここでは、例えば、投書すべてに「ジャニーズ」に関する記述があったり、イラストや創作物のすべてが「ジャニーズ」に関連していたりと、そのコーナーすべてにおいて「ジャニーズ」が絡んでいるものを「ジャニーズコーナー」と判断した。